

医学英語を効果的に教育するための一考察

— 看護英語の取り組み —

岩国 YMCA 国際医療福祉専門学校非常勤講師
岩国医療センター附属看護学校非常勤講師

信 谷 美智子

呉大学看護学部

松 原 みゆき

論文要旨 近年医療分野にも国際化の必要性が高まっている。そのため医療看護の第一線で働く人は、専門家として人種、宗教、文化の違いを超えて、疾病を抱える人々に接する使命を持つと考える。そこで特殊な領域と考えられがちな医学分野の英語、とりわけ看護領域の英語をいかに学生に身近に、平易に習得させるか、その方法として一例を示した。通常の授業では、専門職として必須の用語とその概念の習得、そしてコミュニケーション能力育成の二つを柱にしている。本稿では、用語とその概念習得に関しては、講義内容に関する学生の調査結果から、医療分野の身近で最新の話題を習得するため、関心が高い。その関心を引き出すために、どのように明確な理解また豊かな知識へと補助しているのか一手段を示す。

キーワード：看護英語・背景知識・専門用語

■ はじめに

物質的に豊かで、世界有数の長寿国、日本の最大の関心事は「健康」であるだけに、病気は個人の問題から社会の問題へ、そして国際的な問題として対処しなければならなくなっている。その意味でも医療の現場では、医療や看護に関する英語教育は必須条件である。

今日看護学生に求められる医療分野の英語教育は、最新の医療、健康の話題を通して国際共通用語、概念を習得してもらうことが一つと考えている。そのためには用語の正しい意味（表面の意味ではない）を理解し、背景知識、概念の習得へと段階を踏んでゆく。しかしながら、初めてこの分野の英語に接する看護学生にとっては、必ずしも速読できるやさしい内容ではない。そこでどのようにして、一英語教師が効果的な教育を実施できるのか、一例を紹介する。

■ 目 的

本稿の目的は、看護英語教育について、筆者の取り組みの実際を報告し、経験的視点から分析した、系統的で効果的な看護英語学習法についての私見、および学生の評価をまとめ、今後の課題を検討することにある。

■ 取り組みの実際と考察

1. 取り組みの方法

筆者は効果的に英語説明文を理解させるために考慮している点として、以下の4つを挙げる。

(1) 医療分野の教材

学生が興味、関心をもてるように最新の医療、健康の話題を扱う。身近なテーマとして例えば、「ストレス」「喫煙」「コレステロール」「AIDS」などを選ぶことにより、学習の動機づけにもなると考える。

* 連絡・別刷請求先

のぶたに みちこ

〒737-0004 呉市阿賀南2-10-3 呉大学看護学部（松原みゆき方）

(2) 母国語での背景知識

医療専門用語を用いた説明文をいきなり第二言語である英語で読解することは難しい。そして学生は、看護領域の学習が途中の段階にあるということから、予め母国語で知識を身に付けられる教材であることが必要であろう。この段階では必ず要約活動を取り入れ、次の英文読解への背景知識(基礎知識)とする。

(3) 明確な英文読解への補助活動

英文の理解には基本レベルの単語、専門用語、熟語、文法の知識そして書かれている内容を理解する際の背景知識が必要と言われる。特に背景知識が、(2)の活動を通して得られているため、英文を読む際の効率が良くなる。さらに文章の内容理解を補助するため、必ず要約或いは図表作成活動を取り入れる。この活動は次の2. テキストと内容の具体例で示す。最後に訳の配布または問題演習をすることにより、説明文の理解を進める。

(4) 単語の解説

日英それぞれの説明文から看護領域の単語を整理し配布する。辞書を引けば済む単語も含むが、特に英語をそのままカタカナ語あるいは略語として使用しているものは、単語の解説が必要である。カタカナ、略語においては看護領域だけに限らず、意味をきちんと理解しないで表面だけで使用することは危険であることから、もとの英語とその意味を理解する必要があると考える。動詞においても言葉がもつイメージを解説し、それぞれ独特の使い方を理解する必要がある。

2. テキストと内容の具体例

以下に例を挙げ前述の(2)の活動例を示す。テキストは飯田の「学生のためのカレントメディアカルイングリッシュ」を使用している。

以下は「骨粗しょう症」(Osteoporosis)¹⁾を取り上げ説明する。

《日本語の背景知識》

健康に自信をもっていた老人がちょっとしたはずみで転んで骨折(fracture)するケースが実に多い。自分で気づかないうちに骨量(bone mass)が減少していて、多孔性(porous)でもろい骨(brittle bone)になってしまっているのである。これを骨粗しょう症(osteoporosis)、特に老人性骨粗しょう症(senile osteoporosis)という。“os”は骨，“porous”は孔の多いという意味である。女性に多く見られ、また年齢とともに発生

率は高くなる。45歳以上の女性の半数にすでに始まっているといわれ、特に女性ホルモンのエストロゲン(estrogen)の分泌(secretion)がなくなる閉経後の女性に急増する。80歳ではもともとの骨量の3分の2が失われているという。骨はたえず吸収(resorption)と形成(formation)が繰り返しているものであるが、この骨吸収(bone resorption)と骨形成(bone formation)のバランスに差が生じ、吸収が形成を上回る結果として骨量が減少し、骨粗しょう症になる。老人でなくてもいろいろな病気によって骨粗しょう症になることもある。甲状腺機能低下症(hypothyroidism)や性ホルモンの欠乏による性腺機能低下症(hypogonadism)などがよく知られている。若いからといって安心はできない。(一部略)逆に過度の運動も危険である。トップクラス的女子マラソン選手のなかには70歳の老人なみの骨になっている選手もいることが日本陸上競技連盟の調査で判明した。過酷な練習のストレスがホルモン異常を招いたとされている。また、最近の報告では喫煙者に骨量の減少がみられるという。栄養、特にカルシウム(calcium)の摂取、適度の運動、そして禁煙が骨のために大切なことである。以上の説明を要約すると、表1発生別に見た骨粗しょう症の特徴になる。

表1 発生期別に見た骨粗しょう症の特徴

発生期	老人(男女)	45歳(女)以上	その他
タイプ	老人性～	()後～	
原因	骨吸収と形成の差	女性ホルモン()の低下	病気、栄養()、過度な運動、喫煙
病態	骨量() 骨質()		

note: あらかじめ教師が作成して、所々空欄にしておいた表を用いて空欄補充を行い、確認することで理解を促す。

以下は骨粗しょう症についての英語説明文の例である。

《英文》 Reading Comprehension

() is the most common type of osteoporosis. The withdrawal of () at menopause causes an increase in bone resorption that weakens the bones. () do not experience sudden hormonal changes. () is another common cause of osteoporosis as bone formation is enhanced by muscle activity. ()

contribute to the development of osteoporosis.
Inadequate intake of calcium
or vitamin D result in lower bone mass.
() の中の単語を □ の中から選ぶ

men	nutritional factors
estrogens	age-related
osteoporosis	immobility

以上の説明を要約すると表2 骨粗しょう症のタイプとその原因

表2 骨粗しょう症のタイプとその原因

types of age related osteoporosis	() osteoporosis	osteoporosis at ()
causes of osteoporosis	1. the withdrawal of ()	
	2. () = lack of exercise	
	3. () = lack of calcium or vitamin D	

note: 適切に空欄補充をした時点で表1の日本語と比較し、共通理解ができる。

3. 講義内容に関する学生の調査結果

学生の講義評価を表3 講義内容に関する学生の調査結果と、表4に表1と2に示した手順の授業案を示した。英語の得手、不得手にかかわらず、医学教材や臨床の場での会話など、専門領域への関心の高さが表れている。しかしながら、英語での授業となると、英語を得意とする学生には授業の環境作りとして効果的な反面、苦手な学生にとっては逆効果であったともいえよう。したがって、動機付けを保つためにも、苦手意識への配慮

表3 講義内容に関する学生の調査結果

(B校 2年生44名)

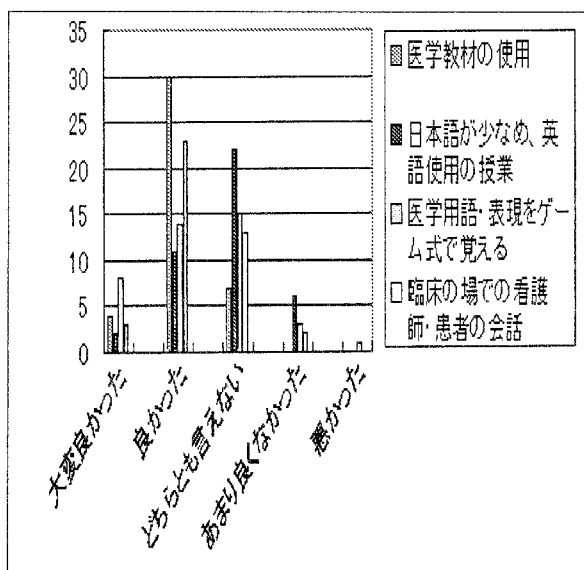


表4 表1と2に示した手順の授業案

手順	教師の活動	学生の活動
1	段落ごと読む前に問題点をあげ、考えながら読むように指示する	日本語の説明文を読む
2	予め作成し、所々空所にしておいた表を黒板に示す	問題点を考えながら空所を補充し、全員で確認する
3	英語の説明文(空欄が数か所ある)を読む前に、内容理解の要となる語や表現の解説をする。多少難しくても、前述の日本語での基礎知識が役立つことを意識させる	フレーズリーディング(意味のまとまりで読む)をしながら、空欄の完成を含めて読み、全員で確認する
4	予め作成し、所々空欄にしておいた表を黒板に示す	適切に空欄補充をした時点で、前の日本語の表と比較し、共通理解ができる
5	全員の訳の配付または問題演習を行う	

が必要と思われる。例えば、医療英語や英語の表現など、文字の上だけで習得するのではなく、グループやゲーム活動を通して、学生同士の動機付けを高めながら学ぶことが大切である。

■ まとめ

特殊な領域と考えられがちな医療・看護関連の英語に、学生が関心を持って接していけるかどうか最初は不安があった。しかし一年生のカリキュラム終了時点で行った質問紙調査の結果では、「もっと深くやりたい」、「予習をしっかりしたい」、「テーマにそってやっていくと勉強になるので楽しい」と意欲的な自由記載があった。反面「英語がすごく苦手なので英語で質問されるとすごく悩んでしまう」、「もっとゆっくり、ポイントを明確にしながら進めて欲しい」と記載している学生もいた。しかしながらおおむね一年間の内容や方法については、学生に好評であった。

本報告では、英文読解を補助する手段として、まず背景知識として日本語での説明文を利用し内容を図表にすること。そして関連の英文を読み解く際にも、図表作成を取り入れる具体例を示した。医療という専門分野のさまざまな話題を概念化していく過程で日本語での背景知識が、有効な一つの読解補助になると考える。しかしながら図表作成をあらかじめ教師が行い、要所で補充させるという段階では、学生一人一人が日本語説明文、英語説明文の内容全体を理解できているかどうか、明確とは言えない。

今後は図表作成あるいは要約を個人で出来るように徐々に指導することが課題である。一つの決まった型だけでなく、学生が作り出す表現の多様性、類似性もみることにより、より高い理解度へ

の補助手段を探ってゆきたいと考えている。

*本報告は、中国地区英語教育学会（2004年6月）で発表した内容に加筆及び修正した。

引用文献

- 1) 飯田恭子：学生のためのカレントメデイカルイングリッシュ，医学書院，18-19，2002

参考文献

古藤晃：英文を読み解く以前に知るべき現代社会の常識，河出書房新社，2003
清水雅子，名木田恵理子：ヘルスサイエンスの英語入門，講談社，2001